

「メシマコブ・ヤマブシタケ混合物による抗腫瘍効果」

Anti-tumor effect of combined material of *Phellinus Linteus* and *Hericius erinaceum* to
EL-4 tumor cell in vivo

中村 仁美, 海野 有紀, 小池 泰介, 平間 稔, 堀内 勲

株式会社 応微研

Anti-tumor effect of combined material of *Phellinus Linteus* and *Hericius erinaceum* was examined, in vivo, with EL-4 transplanted to mice.

Administration of the material at 120mg/head showed best anti-tumor effect .

[目的]

タバコウロコタケ科キコブタケ属の担子菌類である *Phellinus Linteus* (和名 メシマコブ)の抗腫瘍効果については広く検討が行われている。またサンゴハリタケ科に属する *Hericius erinaceum* (和名 ヤマブシタケ)もキノコ類では最も β -グルカンが高いことがわかっている。そこで、メシマコブとヤマブシタケを混合することにより相乗効果が得られるのではないかと考え、試験を行った。

[方法]

被検物質及びポジティブコントロールとして Krestin を C57BL/6 マウスにそれぞれ経口投与した(n=10)。被検物質は経口ゾンデを用いて 1 日 1 回連日投与した。投与開始 8 日後 (day0) に被検動物腰背部に EL-4 (1.5×10^4 cells/0.2ml/head s.c) を接種した。さらに 20 日間経口投与を継続するとともに、ノギスにて腫瘍の径を測定した。21 日目に各群マウスを頸椎脱臼にて屠殺し、脾臓、胸腺及び腫瘍を摘出し、重量を測定した。

[結果及び結論]

抗酸化能試験を行った結果では、メシマコブとヤマブシタケを混合することにより相乗効果が得られている。そこで、抗腫瘍についても両者の混合によって同様の相乗効果が得られるかを調べた。また濃度依存性を検討するためにメシマコブ・ヤマブシタケ混合物(1:1)を 60, 120, 240, 300, 360, 480mg/head をマウスに経口投与し、抗腫瘍試験を行った。

その結果、混合物 120mg/head 投与群が最も強い抗腫瘍効果を示した。ポジティブコントロールである Krestin 群ではコントロールの約 1/2 の腫瘍の退縮であったが、それに対し混合物 120mg/head 投与群ではコントロールの約 1/4 まで腫瘍が退縮した。